

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



No.1134 2014年9月号

第40回四国林政連絡協議会

9月10日、徳島県庁において、四国林政連絡協議会を開催しました。

【詳細は2頁】



四国林政連絡協議会（浅川局長挨拶）



第40回四国林政連絡協議会



九月一日、徳島県庁において、四国各県の林務担当部局、(独)森林総合研究所四国支所、同林木育種センター関西育種場、同森林農地整備センター中国四



国整備局参加のもと、林野庁から担当官の出席を得て第四〇回四国林政連絡協議会を開催しました。開会にあたり協議会会長の浅川森林管理局局長から「国有林野事業は昨年度から一般会計化となり二年目をむかえ、民有林を含めた林業全体の活性化や成長産業化の推進を考えているところです。本日は各機関の取組や研究成果を紹介いただき、活発な意見交換ができれば幸いです。」と挨拶

次に開催県である徳島県の河口林業飛躍局長と林野庁計画課齋藤企画班担当課長補佐から挨拶がありました。

続いて、「四国山の日賞」選定団体の報告、林野庁から森林・林業・木材産業を巡る最近の動きについての説明が行われました。その後、各機関から新規就業者対策、公共建築物等における木材利用の推進等の取組状況や、森林総合研究所における各種研究事例や国有林との連携の状況について説明があり、これらの説明に関して各機関からは活発な意見や要望が出され、有意義な意見交換が行われました。



四国山の日賞選考委員会

「四国山の日賞」は、四国四県と四国森林管理局との間で締結した「四国の森

づくりに関する共同宣言」(平成一六年)の趣旨に沿って、四国の森林等をフィールドとして四国の森づくり活動(「森林整備の推進」、「木材の利用推進」及び「森林環境教育活動の推進」)に積極的に取り組んでいる団体を選定し、表彰するものです。今年度の募集に対しては、四国四県から九団体に応募があり、八月二二日、林業関係者、環境教育関係者やマスコミ関係者等からなる「四国山の日賞選考委

員会」において、厳正かつ

公正な審査を行い、六団体

(森林整備分野二団体、木材

利用分野一団体、森林環境

教育分野三団体)を四国山

の日賞として選考し、九月

一〇日の四国林政連絡協議

会において決定されました。

なお、表彰式は、一〇月

七日、四国森林管理局にお

いて行います。

受賞団体は、

多面的機能の発揮に向けた

森林整備の推進部門

●新谷公益会

●【愛媛県】東かがわ市北山森林ボラ

ンティア会

●【香川県】

木材の利用推進部門

●四万十町森林組合(大正

集成材工場)

●【高知県】

森林環境教育活動の推進部門

●香美市立大枋中学校

●【高知県】

●愛媛木材青年協議会

●【愛媛県】

●もっこり倶楽部

●【徳島県】

各受賞団体の活動状況、

選定理由については、四国

森林管理局ホームページ

「平成二六年度 四国山の

日賞決定」をご覧ください。

<http://www.rinya.narf.go.jp/shikoku/sidou/20140916.html>

shikoku/sidou/20140916.html

『夏休み森林環境教育』開催

〈技術普及課〉

七月二三日から高知市内

ラブ一四カ所から講師派遣

の浦戸ふれあいセンター

依頼があり、小学生及び保

を皮切りに、ふれあいセン

護者約八〇〇名を対象に八

ター八カ所、放課後児童ク

月二八日までの夏休み期

間、森林環境教

育として、森林

教室を実施しま

した。

今年、子ど

もたちに、より

森林への理解を

深めてもらうた

めにはどうした

らいいか、とい

うことで、事前

に小学校の校長を務められ

ていた方に、異学年に話を

するための方法を伺い、

大切な言葉等をパネルにし

たり、クイズ形式にしてみ

たり、自分たちなりに工夫

してみました。

ほとんどの児童クラブ

が、昨年、森林教室を実施

した所であったため、一・

三年生は森林の働きなどを

覚えてくれていて、発言し

てくれる子どもたちがた

くさんいました。一年生に

は、難しい言葉もありまし

たが、パネルなどで目で見

て理解してもらえたのでは

ないかと思えます。

木工教室でも、児童クラ

ブに関しては、一年生は



児童クラブ 森林教室

「昆虫採集」などの比較的簡単に作れるものを、三年生には「コロコロゲーム」などのような色をたくさん使うものをと学年によって作る作品を変えることを提案してみると、ほとんどのクラブがそれを希望されました。アンケートの回答でも、「学年にあった作品が作れてよかった。」と好評をいただきました。

こちらのしても、皆が慌てずに完成させてくれ、時間のめどがつくなどメリッともありますが、数種類の作品を作製するという事で、指導者が多く必要となるデメリットもありました。が、今年例年になく、多

この森林ボランティアの方々の協力があり、そのお陰で数種類の作品を作ることが出来ました。

また、高知市教育委員会が主催した各ふれあいセンターの「親子夏休み木工教室」では、「森の妖精貯金箱」に人気を集めました。のこぎりや、ナイフを使い小枝等を加工するのに苦労していましたが、刃物を使ういい機会になったと思います。

この夏休み期間中に、たくさんの児童、先生、保護者の方に森林教室等を実施しました。「木工作品は夏休みの宿題にする。」と言う子ども達が大半でした

が、中には「今日はお母さんの誕生日だからプレゼントにする。」などの嬉しい返事もありました。森林の働きを学び、木の温もりに触れ、少しでも森林・林業に興味を持って頂き、森林の大切さを理解し、もっと身近に親しんでもらえたらと願っています。

児童クラブ 作製中



児童クラブ 作製中

児童クラブ 作品



児童クラブ 作品



ふれあいセンター 森林教室



ふれあいセンター 作製中



ふれあいセンター 作品



この葉っぱいいにおい（森林教室）

近な自然環境への関心や理解を深めることを目的として、オイスカ高知県推進協議会との共催で、例年、夏休み終盤に子どもとその保護者を対象に開催していますが、今年も開催してはいますが、今年も年齢層が幅広く、また、例年に比べ、小学生低学年の小さなお子さんの参加が多くなりました。

まず、当局が高知市を流れる身近な鏡川をテーマにクイズを行い、あわせて「川の流れの元をたどれば山なんだよ」と伝えた後、もつ

感じていました。「これを機に今日の樹種くらいは覚えてほしいです」と真剣にメモをとってくれていた親子や、家でもつと勉強したいと、用意した



積木教室



八月二十五日、公募による親子一六組、三六名が参加した。「夏休み親子ふれあい木工教室」を、当局の大会議室において実施しました。この木工教室は、夏休み



うまく作れるかな
(木工作品作製中)

と山に親しんでもらうために、樹木について、数種類の枝葉で、葉の違いや、特徴、モミとツガを代表に似ている葉の違いの見分け方などの森林教室を行いました。参加者は、あまりじっくりと葉等を見る機会がないよう、親子で匂いを嗅いだり、手触りの違いを感じていました。子どもたちは、色使い等に工夫して、完成した作品はどれも個性的に仕上がりました。

続いて、森林整備等で発生した広葉樹の枝などを使って、『カエルのジャンプゲーム』を製作しました。

り、夏らしい素敵なものになりました。ぜひ、親子で折り紙でカエルを折って、楽しく遊んでもらいたいです。

その後は、オイスカのスタッフと海外の研修生達との積木教室でした。

ヒノキの間伐材で作られた積木に、温もりを感じながら、保護者も交えて、上へ上へと高く積み上げたり、横に並べたり、また、途中で崩れて残念がったり、色々な表情をみる事ができました。

最後に、オイスカスタッフが、なぜ積木が作られたかなどを、順を追って丁寧に説明し、森林や木について勉強する楽しい一日を過ごしました。

各地のたより



七月二六日から翌二七日

にかけて、徳島県美馬市木屋平の中尾山高原において連合徳島の主催による「親子サマーキャンプ」が開催されました。このイベントは徳島県内の親子連れを対象に毎年催されており、今年には総勢七八名が参加しました。当署からは職員八名が森林教室の講師として支援を行いました。

た。

開会式の中で、当署次長より森林の大切さや山の日の制定などについて話をした後、木工クラフト班と遊歩道ウォーキング班に分かれ森林教室を行いました

木工クラフト班は七二名が参加し、メッセージボードの作業を行いました。作業開始前に当署職員より、日本や徳島県の森林の特徴や森林に住むほ乳類の話をしました。

遊歩道をウォーキング中



メッセージボード作製中

に、サマーキャンプ会場に近い剣山系に生息するツキノワグマの話題では高い関心を集めていました。その後、木工製作に取りかかり、参加者は思い思いのデザインで自分好みのメッセージボードを完成させていました。

遊歩道ウォーキング班には六名が参加し、標高約一、七二二mの丸笹山に登りました。当日はとても天気が良く日差しが強かったのですが、その分森の中は涼しく感じられ森林の持つ

環境調節機能を実感しても
 りました。また、ウラジ
 ロモミの枝先についていた
 紫色の球果を見せると、参
 加者は興味津々の様子で写
 真を撮ったり匂いを嗅いだ
 りと、普段とは違う景色の
 中でリラックスできたよう
 でした。

今回の森林教室は屋内、
 屋外に分かれ実施しました
 が、森林についての理解と
 木材利用の促進について考
 えた場合、どちらのプログ
 ラムも重要であることを再
 認識できました。今後実施
 する森林教室についても、
 一つ一つを丁寧に積み重ね
 ていくことが重要と考えて
 います。



八月六日、徳島市の沖洲
 学童保育ひまわりクラブに
 おいて小学生一〇一名を対
 象とした森林教室を行いま
 した。

森林の話では、徳島県に
 は豊かな森林がたくさん
 あり、多くの生きものが暮
 らしていること。剣山には
 ツキノワグマがいるが数が
 減っていること。一方では、
 ニホンジカが増えすぎて山
 の草木が食べられ、荒らさ
 れていることについても話
 をしました。

また、この様な状況では

あるが、森林には多くの木
 が生長しており適正に木を
 伐り、木を使うことも大切
 であること、木は、人の暮
 らしに役立っていることに
 ついても学んでもらいまし
 た。

その後、道具の使い方を
 説明し、木工教室を行いま
 した。参加児童が多いこと
 もあり、対象年齢に応じて
 一〜二年生には写真立て、
 三〜四年生にはペン立て&
 鉛筆、五〜六年生には時計
 &カレンダー作りと三班に
 分かれて実施しました。ペー
 スを作り上げてから、飾り
 用に準備してあるマスコツ
 トの材料から動物や昆虫を
 作っていました。時間が迫
 りなんとか作り終えた児童
 もいましたが、夢中になっ



どのマスコットにしようかな？



て一生懸命作った作品に子
 どもたちは、みんな満足し
 ていました。
 今回の森林教室は、都市
 部に住む子どもたちにとつ
 て、森林についての理解と
 木材利用につながるその足
 かりとなる貴重な一日で
 あったと思います。当署と
 しては森林や木製品に興味
 や関心を持ってもらえるよ
 うに、今後も継続して森林
 教室を実施していく予定
 です。

森林教室 (加茂児童館)



八月一日、二〇日、二六日に徳島市内三方所の児童館 (加茂、上八万、多



家良中央) で小学生一〇名を対象とした森林教室「木工クラフト」を行いました。

森林教室では、森林の働きや大切さについて話をしました。また、徳島県の森林に住む動物の写真を見せ、自分たちの身近な森林でたくさん動物が見られることを話したり、特に、ツキノワグマの話をする子どもたちは熱心に聞き入っていました。エビフライの形になったマツボックリやニホンジカの皮剥被害を受けた樹皮を見せクイズに答えてもらったりしました。子どもたちは、どれも興味津々に話を聞いていました。

飾り付けどれにしようかな? (上八万児童館)



その後、お待ちかねの木工クラフトです。始めに、木工で使用する道具の使用方法を説明して、ペン立てや、写真立ての作製にとりかかりました。子どもたちはあつという間にペン立て等

のベースを完成させると、飾り付け用の材料を置いた所で、作りたいマスコットを選んでいました。クマやカブトムシなど、当署が準備したマスコットを丁寧に作っていました。また、マスコット作りだけにとどまらず、たくさん木の実を使ってペン立て等に飾り付けをしたり、ポスターカラーで塗りカラフルなものに仕上げたりと、個性が光る作品がどんどん出来上がっていききました。

普段、徳島市内の子どもたちは木に触れる機会が少ないのですが、木を身近に感じ、生活の中に取り入れてもらえるよう、木にじかに触れ、ぬくもりを感じら

れる木工クラフトが、そのきっかけになればと考えており、今後も引き続いてこのような森林教室を実施していききたいと思います。



オリジナルの写真立てできましたよ。(多家良中央児童館)

